

7/15

日曜

小諸市重要無形民俗文化財  
健速神社祇園祭

7/14

土曜

こもろ市民まつり  
みこし

平成最後の夏  
小諸が一年で最も  
熱く燃える二日間  
は  
大手門公園のみこし  
一色に染まります

大手門公園を  
みこしで染めろ  
二日間

平成30年  
信州小諸  
祇園祭

本年より  
毎年土曜日開催の  
市民まつりでは  
全ての大人みこしが  
大手門公園に結集し  
開会式を行います  
翌日の日曜日の  
健速神社例大祭では  
祭終盤に最高潮を  
迎える渡台神事の  
会場を大手門公園に  
変更して行います  
装いを新たにした  
大手門公園にて  
小諸最大の行事を  
伝統文化を  
是非とも  
ご堪能ください！

7月15日(日)  
健速神社例大祭  
祇園祭



【祭典日程】

- 10時40分 浦安の舞 (健速神社)
- 11時00分 神事 (健速神社)
- 12時00分 宮出し (健速神社)  
石段下り
- 12時30分 相生町巡幸 (相生町通り)
- 14時45分 ささら踊り先導による入城再現  
(大手門公園)
- 17時50分 水掛神事 (本町)
- 19時45分 渡台神事 (大手門公園)
- 21時00分 仮宮神輿納め (ほんまぢ町屋敷)

※健速神社祇園祭の詳細は裏面をご覧ください。

※祭礼など多数の人が集まる催しが行われている場所の上空における無人航空機(ドローン等)の飛行は、航空法により原則禁止されています。両日ともに、お祭りの会場周辺でドローン等を飛行させる場合は、国土交通省の承認が必要です。

こもろ市民まつりみこし『開会式』及び健速神社祇園祭『渡台神事』の大手門公園における開催に向けて、小諸市区長会中部地区会では、県の『地域発元気づくり支援金』も活用し、必要な設備や公園内の装飾等を整備しました。ご協力いただいた関係団体・関係者の皆さまに、心よりお礼を申し上げます。

7月14日(土)  
こもろ市民まつり  
みこし

- 【子ども神輿】
- 13:30 開会式(相生町)
- 13:45 相生町通り(出発)
- 荒 町
- 14:15 本 町(大休止～出発)
- 鹿島町
- 相生町(本部前)
- 15:40 終 了
- 【大人神輿】
- 16:10 開会式(大手門公園)
- 16:20 出 発(大手門公園)
- 南 町
- 荒 堀
- 17:45 与良町(大休止～出発)
- 本 町
- 18:50 鹿島町(小休止～出発)
- 相生町(本部前)
- 20:50 終 了

※交通規制等の詳細情報は、下記のQRコードより、小諸市ホームページをご覧ください。

【お問い合わせ】  
こもろ市民まつり  
実行委員会  
(小諸商工会議所内)  
Tel: 0267-22-3355



子どもみこし参加団体 (出発順)

1. 東雲松井連合子供みこし
2. みすず幼稚園
3. 南町区子供みこし
4. 諸子どもみこし
5. 小原区子供みこし
6. 加増子供御輿連
7. 滝原区青少年育成会
8. 田町子供みこし
9. 乙女区子供会
10. 相生区子供みこし
11. 六供子供みこし連
12. 和田区育成会子供みこし
13. 東小諸こどもみこし連
14. 市町子供みこし連
15. 四ツ谷子供みこし連
16. 御幸町区
17. 新町子供みこしの会
18. 森山子どもみこし
19. 荒町地区なかよし子供連
20. 西小諸連
21. 与良区子供みこし
22. 本町子供みこし



大人みこし参加団体 (出発順)

1. 小諸健速会
2. おんなみこし縁
3. 小諸看護専門学校
4. 大空連
5. 一般社団法人 こもろ観光局
6. 佛小諸村田製作所
7. 八幡町神輿連
8. 大正みこし古城連
9. 浅間南麓こもろ医療センター
10. 信州車座
11. 昇龍会
12. 佛アーデン
13. 南町区
14. 与良区みこし連
15. 赤坂みこし会
16. 荒町区 (太鼓・神輿)
17. イーステージ佛
18. 小原神輿会
19. 東小諸神輿会
20. 克友會
21. 東雲御輿会
22. 相生区大人御輿



## 祇園祭とは

祇園祭は、貞観11年(896)に日本各地に疫病が流行した際に、平安京において祇園の神を祀り、御霊会(怨霊による素りを防ぐための鎮魂儀礼)を行ったのが起源とされ、その後日本全国に広まりました。祇園の神とは、英雄神「須佐之男命(スサノオノミコト)」で、また、インドにおける祇園精舎の守護神「牛頭天王(ゴズテンノウ)」と習合、同一神とされました。須佐之男命は非常に豪快な神であり、各地の祇園祭も荒々しい祭が多いのが特徴です。



## 小諸の祇園

小諸は、奈良・平安時代より一級国道である東山道を通って文化や信仰が盛んに入ってきた地域であり、祇園信仰も早くから伝えられたと考えられています。裏付けとなる資料を欠くために確定は困難ですが、口伝によりますと、平安時代末期から鎌倉時代初期にかけ、小諸を本拠として活躍し、鎌倉幕府の御家人として「東鏡」等に名を残す「小室太郎光兼」もこれを尊崇したと言われています。その後も、大手門を築いた仙石秀久など歴代領主の庇護を受け、江戸時代には「城祭祇園御祭礼」と称されました。さらに、明治時代に入っては、文豪・島崎藤村が「千曲川のスケッチ」の中で、「十三日の祇園」としてその様子を記しています。このように、「小諸の祇園」は非常に古くから続く伝統ある祇園祭で、東信地方を代表する祭礼です。



## 六角神輿

土曜日のこもろ市民まつり「みこし」では、黒地に金色の装飾を施した六角形のみこしが数多く見られます。これらは全て、元をたどると「本神輿」とも呼ばれる健速(タケハヤ)神社の神輿を模したもので、他に類のない小諸独自の「小諸の文化」といえる存在です。健速神社祇園祭で担がれている神輿は、かつては白木の四角だったものを、延宝3年(1675)に六角神輿に変えたと伝えられています。現在の本祭典で担がれている神輿は、総檜造りの漆塗り仕上げ、釘は一本も使わず麻の縄締め、屋根の上には擬宝珠をつけた立派な神輿で、文化8年(1811)に作られたものだということが判明しています。このように、神輿が二百年以上に渡って使用されてきた秘訣はその構造にあります。健速神輿は、「ほぞ」と「蟻組」の手法を用いて、一つ一つの部位に完全に分解できる構造となっており、麻の縄締めにより固定することで伸縮性が生まれ、祭の特徴である非常に激しい神輿練りに堪え得る造りとなっているとともに、損傷した時には傷んだ箇所のみを交換することで、長年の使用を可能としているのです。



### ★ 宮出しと石段下り (11時頃～)

最初の見せ場。厳粛な神事後、神輿が担ぎ手によって激しく暴れながら拝殿より出る。激しく暴れるのは、ご神体の霊威を高めるためだ。続いて鳥居をくぐると、類まれな大きさを誇る本神輿が一気に石段を下り落ちる。

## 15 日曜 祇園祭 案内図



### ★ ささら踊りと競演 (14時45分頃～)

本年、江戸時代における小諸城内への入城を再現し、ささら踊りの先導で神輿が大手門をくぐり抜ける。

### ★ 水掛神事 (17時50分頃～)

五穀豊穡を願って、恵みの雨を天に祈る雨乞いの行事。白の上におろされた神輿へ次々と水を掛けながら、担ぎ手たちが左回りにぐるぐると回す。途中、足をつらした者が外へ弾かれたりする危険な場面もあり、非常に豪快な神事である。

### ★ 子供乗せ (大手15時30分頃～)

神輿巡幸先の至る場所で、子供を神輿に乗せている様子が見られる。これは子供の健やかな成長を祈る伝統で、15時30分頃の大手鹿島町巡幸時は、氏子以外の子供も乗せることが可能。(希望される方は当日申し出てください)



### ★ 渡台神事 (19時45分頃～)

本祭典最大の見せ場。1675年から1960年まで、285年間行われてきた神輿引渡しの儀の名残の行事。かつては日中担いだ神輿を隣接する市町側へ夜間貸すために、神輿の引渡しが行われていた。当時の若者たちは、いつまでも担いでいたい一心で、幾度も往復しては、引渡しを渋っていた。1960年に市町側への神輿引渡しの儀が無くなってからは、当時の名残で神事のみが行われている。これまでの会場は狭隘な路地で、観客の危険性も高まってきたことから、本年より会場を大手門公園に変更する。

### ★ 仮宮神輿納め (21時頃)

神輿巡幸の最後は、神輿と担ぎ棒をつないでいた縄を切りながら仮宮へと向かう。全ての縄が切断され、完全に担ぎ棒と切り離された神輿を本町の仮宮に納め、長い本祭典の一日も終わりとなる。切断された縄は子宝祈願や安産のお守りとして有名で、終了後観客へ配られる。本年より仮宮はほんまち町屋館の修景門下へ設置される。

※日程等のお問い合わせは  
小諸市観光案内所Tel:0267-22-0568

